

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ 市議団ニュース

<第1回定例会>

2018年3月26日

No. 189

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

必要性の具体的根拠がない「都心アクセス道路」——ムダ遣いやめ交差点改良で！

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は19日、予算特別委員会で都心アクセス道路について質問しました。

村上議員は冒頭、札幌市は区民センターなどの市有施設をはじめ老朽化したインフラの大規模修繕や建て替えが集中する時代に入っており、そのもとで都心再開発やMICE施設整備、新幹線の札幌延伸、冬季五輪招致など莫大な費用を要する事業が計画され、一方、若者のクルマ離れ、高齢者の免許返納、CO2削減などの課題が提起されているとのべ、こうしたなかで将来の都心部交通のあり方が問われていると強調しました。

そのうえで、村上議員は「観光客が新千歳空港から高速道路を使って都心に入ってくる場合、北広島、札幌南、札幌北、新川ICの利用が想定されるが、それぞれの距離と所要時間について独自の調査を行ったことがあるのか」「札幌北ICが都心へのアクセスに最も優れているという根拠は何か」とたずねました。

米田総合計画部長は、「交通センサス（国土交通省を主体に実施している全国道路・街路交通情勢調査の通称）を用いており、本市独自の調査ではない」、これにより「新千歳空港から都心部への到達時間は札幌北IC経由が一番早い」とのべました。

村上議員は、「早いといっても札幌南IC経由よりも4分程度。都心部を札幌駅としているデータだが、これを市役所や少し南側に移せば逆転する」とのべ、自ら新千歳空港から市役所まで車を走らせたが札幌北と南ICとで所要時間の違いはほとんどなかったとのべました。

そして、「札幌北ICは南IC経由よりも約7km距離が長く高速料金も高い。また、札幌北ICは通勤時間帯が混雑しているのが特徴」とのべ、さらに「都心の観光ポイントは大通、テレビ塔、時計台、すすきの、中島公園など札幌駅より南側に位置しており、札幌北ICが都心からのアクセス性で優位にあるとはいえない」と指摘し、「わずかに数分短縮するために莫大な費用をかけて高規格道路を建設するのではなく交差点改良を優先すべき」とたずねました。

米田部長は、「時間短縮による速達性の向上や定時性が確保される」などと従来の答弁をくり返すとともに、「小樽や旭川方面といった道内各地のアクセスを考えると札幌北ICは優れている」と答弁。村上議員は、「観光客が多く滞在するのは北エリアよりも南エリアが断然多い」とのべ、石狩湾新港からの物流も都心に入ってくるものはほとんどないこと、都市間バスの利用も札幌北ICは1割程度しかないことを議会で明らかにしてきたと強調。「新幹線の札幌延伸を機に、都心アクセス強化をはかりインバウンド（外国人）観光客を全道に広げるために必要というが、車を利用する観光客をどのように見込んでいるのか」とたずねました。

米田部長が「インバウンド観光客は増えているが観光客全体で考えればインバウンドの割合はそれほど大きくない」とのべたのに対し、村上議員は、「先日の委員会で丘珠空港の今後の利活用について審議されたが、その際、道内のインバウンド客が4倍に増え、うち4割が札幌市内に宿泊している、だから丘珠空港の需要は高まるとの説明だった」と指摘。しかも、「インバウンド客がどの程度丘珠空港を利用しているのかと聞くと数字は押さえていないという答弁だった」と批判しました。市は、丘珠空港とのアクセス強化も都心アクセス道路推進の理由にしていますが、空港から都心に向かう利用者がどの程度いるかもつかんでいません。

村上議員は、「なにか新幹線がくれば道路を利用する人も増える、飛行場を利用する人も増えると夢のようなことをいっているが、具体的な数字や根拠にもとづいて説明すべきだ」と批判。積雪・寒冷の北海道の特徴を踏まえれば、観光客の移動についても、なれない冬道での車の運転は危険が伴い、「公共交通機関を利用してもらうよう誘導すべきではないか」と強調しました。

さらに、**村上議員**は、都心部交通のあり方として、本市としてトラックの荷物を共同運搬することや共同荷さばきの実証実験も行われ、また、民間ではカーシェアリングもすすんでいるとして、都心へのクルマの流入を少なくすることはCO2削減など環境首都にふさわしい取り組みでもあるとのべました。

最後に、**村上議員**は、国道36号線の豊平橋付近の混雑度が1.93で創成川通（北32西2）の倍以上であることを指摘してきたとのべ、MICE施設を中島公園駅周辺地区に整備することが決まり、国道36号線とその周辺、都心南部の混雑など新たな交通課題が生じるとのべ「必要なのは都心アクセス道路ではなく、これらを踏まえた総合的な交通政策を講じることではないか」とただすと、**米田部長**は、これには答えず「MICEなどによる新たな交通課題についてはそれを見極めたうえで必要な対策を検討していく」とのべました。

村上議員は、MICEが中島公園に整備されれば国際会議など5000から10000人規模の参加が見込まれているとして、これらの方々が新千歳空港から車でくる場合、圧倒的に北広島か札幌南IC経由になると強調。そして、市は、都心アクセス道路の必要性を強調するが、数字にもとづく明確な根拠を示すことなく推進していると批判し、これでは「リスクが大きく将来の負の遺産となる可能性が大いにあるのではないか」と、秋元市長の見解を求めました。

市長は、「空港から都心部までのアクセス時間は、国際都市としての位置づけとして重要」とのべ、「新千歳から札幌南ICというのは自然な流れ」と認めましたが、新たな道路を整備する場合、高速から都心までの距離が短い札幌北ICの方が事業費は少ないとのべ、また、「外からお金を稼ぐこと」が重要であり、観光・MICEなどを呼び込むことなど、空港から都心部を高速道路でつなげることが重要などと従来の説明をくり返しました。

村上議員は、「先日の検討会（国、道、札幌市）で札幌市の役割として、市民との合意形成に向けた取り組みとされたが、そうであるなら数字にもとづく根拠を市民にしめすことが非常に重要だ」と強調しました。